

編集後記

昨年度に引き続き社会に大きな影響を巻き起こした、コロナウイルスの感染は、現在、オミクロン株の急激な感染拡大による第六波の渦中にある。大学は、第五波が沈静化した十一月から教場での対面授業が再開し、構内に多くの学生の姿をみるようになり、以前の状況がもどったようにも感じたが、今は再び閑散とした中、学生も教員も息を潜めて事態の収束を待っているような状態である。

そのような中、多くの執筆者の御寄稿をいただき、その御協力によって例年通り今号が刊行できたことにあらためて感謝申しあげたい。多様な分野における諸論攷が、諸氏の目に触れることは、本研究所の意義としても何よりありがたいことである。

あらゆる面で従来とは異なる状況に対応するべく格闘する中、学生も教員も、大学で学びまた研究する意味をあらためて考えることとなっている。この一兩年の大きな状況の変化に対し、たとえ感染がおさまっても、恐らく元には戻らないだろう、というような見通しがさまざまな面でささやかれている。そのことを意識しながらも、むしろ諸先輩の学問研究への姿勢を十分に学びながら、視点の転換に

よる新たな取り組みに一步を進めるべきであり、そのためにも今号が持つ意義には特に深いものを感じる次第である。

編集係

駒澤大學禪研究所年報 第三十三號

二〇二二年十二月二十五日 印刷

二〇二二年十二月三十一日 発行

発行者 駒澤大學禪研究所

〒一五四―八五二五

東京都世田谷区駒沢一丁目二十三番一号

電話 〇三(六三八一)八九〇三(深沢校舎内)

代表者 角田泰隆

印刷所 東京技術協会

東京都港区三田四一八一四一

電話 〇三(三四四四)二七一六